



Science Winds

サイエンス・ウインズ

関西学院大学理工学部同窓会コミュニケーション・レター

NO. 14
Nov. 2018

2018年度 理工学部同窓会講演会

三村高志さん「京都賞」受賞記念講演会

「トランジスタと歩んだ半世紀」

6月2日（土）午後4時より関西学院大学大阪梅田キャンパスにおいて、2018年度同窓会講演会として、三村高志さんの2017年度第33回「京都賞」（先端部門）受賞記念の講演会「トランジスタと歩んだ半世紀」が開催されました。

三村さんは本学理学部物理学科を1967年に卒業され、大阪大学大学院修士課程を修了後、株式会社富士通に入社され、株式会社富士通研究所に移られ、現在、名誉フェローです。

昭和55年に「高電子移動度トランジスタ HEMT」（HEMTとは、化合物半導体材料を利用した電界効果型トランジスタで、High Electron Mobility Transistor の略）と呼ばれる新型のトランジスタを発明され、このトランジスタは衛星放送用の受信機の性能を高め、パラボラアンテナの小型化につながったほか、カーナビゲーションシステムや携帯電話の基地局に使用されるなど情報通信技術の発展に大きく貢献しました。HEMTの発明と応用の功績により、これまで、紫綬褒章、恩賜発明賞、IEEE モーリス・N・リーブマン記念賞等数々の著名な賞を受賞されてきましたが、この度ノーベル賞に最も近い賞の一つといわれる「京都賞」を受賞されました。

昨年12月7日、関西学院大学から「名誉博士」が授与されましたが、理工学部同窓会としてもこの素晴らしい功績に対して、「特別栄誉賞」を贈呈いたしました。

当日の講演では、関西学院大学在籍中の恩師堀健夫先生のお話などから始まり（堀先生はノーベル賞受賞者湯川秀樹先生、朝永振一郎先生の恩師でもあります）、HEMT発明とその後の発展に関わる興味深いお話をお聞きすることができました。一つの興味深いお話として、HEMT 実用化の最初の応用として国立天文台の電波望遠鏡へ応用がなされましたが、当時その応用に関わったのが、本学出身の中井直正さんであることが、当日講演後の質疑の時に、ご本人からお話しされ明らかになりました。中井さんは、国立天文台教授、東京大学教授、筑波大学教授を歴任され、学士院賞を受賞されました。本年より関西学院大学教授として、本学の発展に尽くされています。

当日は同学年の同窓生が多数出席され、講演会終了後は、三村さんの受賞を祝う同期会が開催されました。



講演会での三村高志さん



京都賞授賞式当日の紹介のスライド



昨年12月、関西学院大学名誉博士授与式、村田治学長、三村高志さん、水木純一郎理工学部長

サイエンス・ウインズ No.14 (2018) 発行 関西学院大学理工学部同窓会 2018年11月1日
SCIENCE WINDS: Communication Letter from the Alumni Association of the School of Science and Technology of KGU

URL <http://www.kgus-alumni.org/> E-mail: information@kgus-alumni.org

関西学院大学理工学部同窓会事務局 〒555-0021 大阪市西淀川区歌島1-4-4 寿印刷(株)内
理工学部住所: 〒669-1337 兵庫県三田市学園2-1 関西学院大学神戸三田キャンパス(KSC)

尾崎幸洋先生 紫綬褒章受章

理工学部名誉教授尾崎幸洋先生(元副学長、理工学部長、2018年3月ご退職)には2018年春の褒賞で「紫綬褒章」を受章されました。紫綬褒章は科学技術分野における発明・発見や、学術及びスポーツ・芸術文化分野における優れた業績を挙げた方に授与されます。尾崎先生は昨年日本化学会賞を受賞されましたが引き続きの名誉ある賞の受賞となりました。

尾崎先生のお慶びの言葉:「この度の紫綬褒章受章はまさに青天の霹靂ですが、29年間関学で学生諸君と一緒に頑張ってきた成果が認められたことは本当にうれしく思います。卒業生の皆さまにも共同研究その他で大変お世話になりました。最近、三村さんの京都賞をはじめ関学理学部、理工学部関係者の受賞が続いていますが、これも理学部以来の基礎の研究教育を大切にする伝統のおかげだと思えます。」

理工学部の現況

関西学院大学理工学部長 **水木 純一郎**

2018年度が始まり、早8か月が過ぎようとしています。月日が経つのが本当に早く感じています。2015年4月に先進エネルギーナノ工学科、環境・応用化学科、生命医化学科の3学科を新たに設置し、今年度が完成年度となります。その3学科の完成年次終了に直結して、理工学研究科博士課程前期課程・後期課程に先進エネルギーナノ工学専攻、環境・応用化学専攻、生命医化学専攻の3専攻の新設が認められ、2019年4月に新しく3つの専攻の大学院生が入学することになります。これで、大学院生を含めた理工学部全学生数は、3200名を超える大変大きな学部・研究科となりました。

皆さんもすでにご存知と思いますが、2039年に向けた超長期ビジョンと前半の10年間の方向性を示す長期戦略からなる“Kwansei Grand Challenge”が発表され、ホームページからその概要を見ることができます(<http://kgc2039.jp/strategy/>)。これを作成するに当たり、三田キャンパスの活性化、理工学部の再編のワーキンググループ(WG)が組織され議論いたしました。更に、これとは別に2017年年度初めから「超長期ビジョン」、「長期戦略の方向性」を議論する理工学部内検討WGを立ち上げ、このWGとリンクする形で村田学長の下、理工学部再編WGが立ち上がり現在も議論を進めています。関学は未だに文系大学のイメージが根強く、高校訪問に行っても理工学部の存在感が小さいのを感じています。資源の豊富なアメリカですら「アメリカ国民の収入の成長の85%の原動力は技術革新に由来する」とアメリカ学術会議は公言しています。ましてや天然資源の少ない日本にとって科学技術分野への投資、理科教育の強化は重要です。村田学長はこの観点から関学理系の強化、再編の必要性を感じられていると思います。どのような再編がなされるかはまだ発表する段階にはありませんが、来年度には「アッと驚く」再編案が発表されることを期待しておいてください。

最後になりましたが、うれしいニュースをお伝えしてこの原稿を終えることにします。今年度定年退官された尾崎幸洋名誉教授が2018年度春に紫綬褒章を受章されました。我々関学の教職員、同窓生にとっても大変名誉なことです。また、環境・応用化学科の教授で、同窓生でもある橋本秀樹氏が2018年度兵庫県科学賞を受賞されました。我々共に喜びたいと思います。同窓生皆さんの益々のご活躍を祈願しております。

橋本秀樹教授 兵庫県科学賞受賞

本学理工学部環境・応用化学科 橋本秀樹教授(本学化学科1985年卒業、大阪市立大学名誉教授)が、10月15日 兵庫県科学賞を受賞されました。受賞業績は、【光合成初期反応・人工光合成系の光機能解明に関する先導的研究】によるもので、光合成色素カロテノイドの光励起状態の物性に関する研究から、人工光合成による次世代燃料開発へと研究を進展されました。平成27年関西学院大学理工学部環境・応用化学科学科長として新学科の立ち上げに貢献され、さらに研究を推進されています。

ご挨拶

理工学部同窓会 会長 高井 明德

同窓の皆様にはお元気で活躍のことと思います。本号でご紹介のように昨年から本年にかけてうれしいニュースが続いています。関西学院大学理工学部の益々のご発展と同窓の皆様のご活躍をお祈りいたします。

2017年度 同窓会賞受賞

生命科学科	山田 芽衣
情報科学科	前田 紘輝

本賞は3月18日の卒業式において授与されました

2018年度 同窓会奨励賞受賞

数理科学科	中川 大輔
物理学科	小倉 颯太
先進エネルギーナノ工学科	片山 昇
化学科	山本 晴香
環境・応用化学科	三浦 真理子
生命科学科	青井 麻唯子
生命医化学科	鎌田 優香
情報科学科	村上 大喜
人間システム工学科	太田 真人

これまでの同窓会奨励賞は、本年度より同窓会奨励賞として贈呈することになりました。